

水源地に感謝 江川水源祭開催

水資源機構

筑後川上流総合管理所

6月7日(土)に江川ダムにおいて、ダム建設にご協力いただいた水源地の方への感謝と豊水を祈念して、江川水源祭が執り行われました。(江川水源祭実行委員会：朝倉市、両筑土地改良区、水資源機構、福岡地区水道企業団、福岡市水道局) 会場となる江川ダムの天端では、市長からあいさつ、その後市長や関係利水機関の代表者などによりダム湖面へお酒を注ぐ清酒注ぎの式が行われ、豊かな水に恵まれるよう祈りが捧げられました。

江川ダム(両筑平野用水)は、1975年の管理開始から令和7年度で記念すべき50年を迎えます。水資源機構では、江川水源祭の開催に合わせて、ダムで移転された5つの集落の暮らしぶりを紹介する写真展示を行いました。来場された方々は、江川ダム天端に並べられたパネル写真に写るかつての江川谷の風景や人々の営みに思いを馳せ、豊かな水を供給してくれる水源地への感謝の気持ちを改めて共有することができました。

江川ダム管理開始50周年

甘木市の中心部から、小石原川に沿って遡ること10キロメートル余り、ときに岩を噛み、ときに激みに泡沫を浮かべて変幻極まりない溪谷の合い間に、豁然として開けた江川の里は、まさに山紫水明の地。

(塚本倉人甘木市長 江川民俗資料緊急調査報告書 発刊によせて より引用)

江川谷には多くの人々が暮らしていました。

尾松、大河内、馬場野、高野河内、鮎井の5集落、87世帯404人、公共用施設などが湖底に沈み、永遠にその歴史を閉じました。

ダム建設の歴史の1ページとして、集落の皆様への感謝とともに、当時の江川谷の暮らしを展示いたします。



当時配布されたポストカードの封筒図柄



女男石頭首工取水施設全景のポストカード

筑後川水系の水資源開発(支川の小石原川と佐田川含む筑後川)は、両筑平野用水事業からスタートし、その水源である江川ダムは令和7年4月に管理開始50周年を迎えました。

関係者の方々に感謝するとともに、これからも防災、水の安定的供給を図ることなど通じて、豊かな社会の構築に貢献してまいります。

独立行政法人水資源機構
筑後川上流総合管理所

